あなたの力をネパールで活かしませんか？

ネパールスタディー＆ワークツアー

村を変える！環境プロジェクト

現地日程：2014 年３月８日(土)～３月１４日(金)

（日本からの出発便は 3/7（金）深夜集合　3/15（土）早朝関空着）

参加費：230,000 円（会員価格 224,000 円） ※燃油サージ含みません

＊フライトをご自身で手配の場合　現地費用　120,000 円（会員 114,000 円）

定　員：12 名（最小催行人数５名）　　**対象：高校生以上**

締　切： 2014 年２月７日（金）

ネパール農村地域にて、植林プロジェクトの参加と現地の小学生が実施している“自分たちの学校や地域環境を守る活動”を応援しに行きましょう！

* 植林で護岸を行うプロジェクトでのワーク作業
* 子どもたちの環境プログラムに参加
* 小学校の空調環境を整えるプロジェクトの調査と作業等
* ネパールの古都、世界遺産を通して知るネパール文化。
* 世界の屋根ヒマラヤ山脈眺望（希望者のみオプション）

――自然と共存しながら暮らしているネパールから私たちの今にも通じる何かがあるはずです。――

企　画:公益社団法人アジア協会アジア友の会

お問い合わせ先　〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-2-14　肥後橋官報ビル5階
TEL:06-6444-0587／ FAX:06-6444-0581
メールアドレス　asia@jafs.or.jp

旅行主催:㈱トラベル　ファイブ　ジャパン（国土交通大臣登録旅行業 823 号）
〒541-0059　大阪市中央区博労町３丁目６番７号　御堂筋三都ビル
TEL:06-6253-0212／ FAX:06-6253-0679
担当:一般旅行業務取扱主任者　下村照美

ネパール入国には６ヶ月のパスポート残存期間が必要です。

【スケジュール】

	地名	現地時刻	交通機関	内容(宿泊)	朝食	昼食	夕食
3/7 (金)	関西国際空港	22:20頃　集合					ー
① 3/8 (土)	関西国際空港 バンコク カトマンズ	00:30　出発 05:00　到着 10:30　出発 12:45　到着	TG673 TG319 専用車	ネパールへ向け、バンコク経由にて出発 着後、ホテルへ移動 カトマンズ古都見学 （カトマンズホテル泊）	機内	機内	レストラン
② 3/9 （日）	カトマンズ ピトゥリ村	08:30　出発 15:30　頃到着		朝食後、ピトゥリ村（チトワン国立公園近郊村）へ移動 道中はネパールの地形の成り立ちなどを車窓よりお楽しみください。 昼食は道中 村に着後、宿泊準備＆オリエンテーション 自己紹介プログラム＆村散策 等 （ワーク地　宿泊）	ホテル	道中	ピトゥリ村
③ 3/10 (月) ～ ⑤ 3/12 (水)	ピトゥリ村 （ワーク地）	終日		① 子どもたちと共に考える｢環境活動｣プログラム参加 ② 村で実施している環境プログラム見学（植林より森を形成した状況の見学、バイオガスプラント使用による循環型の暮らし）とワーク作業 ③ 子どもたちとの交流プログラム 等 （ワーク地　宿泊）	ピトゥリ村	ピトゥリ村	ピトゥリ村
⑥ 3/13 （木）	ピトゥリ村 カトマンズ		専用車	朝食後　ｶﾄﾏﾝｽﾞに向けて出発 昼食は道中 カトマンズ到着後ネパール舞踊を見ながら食事	ピトゥリ村	レストラン	レストラン
⑦ 3/14 （金）	カトマンズ バンコク	11:00 13:50　出発 18:25　到着 23:15　出発	専用車 TG320 TG622	ヒマラヤ遊覧飛行（希望者のみのオプション） ホテルより空港へ移動 バンコク経由にて帰国	ホテル	機内	自由
3/15 (土)	関西国際空港	06:25　到着 07:00頃	飛行機	通関後、解散			

【活 動 趣 旨】

アジア協会アジア友の会では 1989 年よりネパールにて農村への支援として、教育支援・飲料水供給・植林などを中心に実施しています。今回は、ネパールの南に広がるタライ（平野）にあるピトゥリ村を訪ね、人々の暮らしに触れると共に、その村で実施している農村開発プログラムにより行っている循環型生活とそれに伴う、現地の子ども達が自分たちの地域にとって必要な環境保全の実施取組みを共に考えます。

事前に日本人の私たちに伝えることができるテーマについて準備し、ネパールに伝えたいこと、ネパールから学べること。人と人とのふれあいからあなた自身を活かし、５つの目的をもって活動してください。

① ネパールの農村生活を体感
② 子ども達に真心をもって接し、共に学ぶ活動
③ 環境支援と農村開発の関係への理解
④ 参加者の取り組みが現地に残ることをめざして準備。
⑤ 私たちが出来ることは？ 私たちの役割は？を考え、行動しよう。

是非、あなたもこの活動に一緒に関わってください。みんなが支えあい、笑顔で日々をおくれる地域づくりのために！！

【実 施 要 項】

◆参加対象
①心身共に健康な男女
②アジアの生活に馴染む事の出来る順応性ある方
③団体行動における協調性のある方

◆申し込み方法
参加申込書に必要事項を記入の上、パスポートのコピー・申込金（３万円）を添えて、事務局までご持参くださるか、現金書留で事務局宛お送りください。

◆参加費支払い方法
申込金（３万円）は参加費用に含まれます。残金は出発日２週間前（又は本会提示日）までにお振込み、または事務局までご持参ください。振込手数料はご負担願います。

◆キャンセルについて
①申込書及び申込金の受領によって正式申し込みといたします。
②参加者の都合による参加辞退の場合、キャンセル料は以下のように申し受けます。
・出発３０日～１１日前に申し出の場合申込金（３万円）
・出発１０日～３日前申し出の場合、全参加費用の３０％
・出発　２日～１日前申し出の場合、全参加費用の５０％
・出発当日以後に申し出の場合、全参加費用の１００％
＊但し、キャンプの遂行が不可能な場合は全額をお返し致します。

◆注意事項
①参加費用には受け入れ団体への資金援助費用が一部含まれます。
②自由行動中の費用は参加費用に含まれません。
③パスポート取得、予防接種、各国の空港使用料、燃油サーチャージ、自由行動中の費用等は参加費用に含まれませんので各自ご負担頂きます。
④ネパール入国には6ヶ月のパスポート残存期間が必要です。それ以前に有効期限の切れる方は、パスポートの再発行手続きをして下さい。
⑤日程その他は、現地受け入れの都合などにより変更される場合がありますので、ご了承下さい。
⑥事前にオリエンテーションやしおり作成等の為に集まりを持ちますので、ご協力をお願い致します。

世界遺産の宝庫！文化の宝庫！ネパール

神々の住む山と言われるヒマラヤ山脈。
見ることが出来れば、2013 年は特別な
1 年になるはずです。
また宗教と密接した暮らしを日々の送る
ネパールの人たちの神髄となるものへの
理解を少し深めましょう。

歴史深い寺が立ち並ぶ古都パタン

仏教寺院ソエンブー

生神様　クマリ

現地の人々とのふれあい　そこから生まれる友情！

公益社団法人アジア協会アジア友の会(JAFS)

水　それは生きていく上で欠かせないもの。アジアの多くの地域では、その水が手に入らなかったり清潔でなかったりして生命が脅かされる人々の生活があります。アジアの村の大部分を占める貧困層の人々は、いまだに飲料水を含む生活用水を不衛生な川や池の水に頼っているのです。

毎日の水汲みは、女性や子どもたちの仕事です。大きな水がめをかかえながら、時には数キロもの距離を一日に何度も往復します。一日のほとんどの時間が水汲みにとられ、教育を受ける時間すらないのが現状です。

今わたしたちにできることとは？　安全な水(井戸)を贈ることで、水が原因の病気は減り、女性や子どもたちは水汲みの重労働から解放されます。そして、水汲みしか見えなかった人たちに明るい未来を贈ることができるのです。

公益社団法人 アジア協会アジア友の会(JAFS)は、飲料水の欠乏が深刻なアジアに安全な水（井戸）を贈る運動として1979年に活動を始めた国際民間協力団体（NGO）です。現在、アジア18ヶ国64ヶ所の現地提携団体と協力し、安全な水（井戸）の供給をはじめ、植林、教育などを通してアジアの村の自立を支援しています。

現在までの協力実績（2013.3.31現在）

井戸建設	1,668基
植林	約245万本
学校	106校舎
トイレ	2,359基
里子	726人

☞アジア協会アジア友の会のワークキャンプ・スタディーツアーとは・・・

（公社）アジア協会アジア友の会は、１９８１年に第一回インドワークキャンプを実施して以来、アジアの各地で、現地プロジェクトを支援するワークキャンプを行ってきました。その間、４３００名を越える多くの若者たちがアジアの大地で汗を流し、異文化交流の貴重な体験をしてきました。また８０年代後半からは、比較的熟年世代や女性の積極的な参加が見られるようになってきました。　しかし残念ながら、その実態は参加者以外の者にわかりにくく、なにやら楽しそうだという雰囲気しか伝わってこないことが多いようです。また、ワークキャンプの意義の理解もさまざまです。参加者のなかには「現地の人々に何かしてあげたい」、あるいは「労働貢献をしてくるのだ」と意気込んで乗り込む人もいますし、また一般的にもそのように理解されています。しかし、電気水道完備の快適な生活をしてきた私達に、実際に現地で出来ることはわずかです。インドやその他の発展途上国には、機械も資材も技術もないと思って、そのような認識の延長でワークキャンプを考える人もいます。

しかし実際には、その土地に見合った資材、技術、人材があり、現地では何かのプロジェクトを実施するにあたって必ずしもワークキャンプを必要としているわけではないという現実に直面します。更には、現地で大げさなセレモニーやお客様扱いを受けて、一体なんのために自分は来たのだろうと戸惑うことにもなるわけです。　では、一体何のためにワークキャンプをするのでしょうか？　ワークキャンプは現地に迷惑をかけているだけではないのでしょうか？　現地と日本側双方にとって有意義な協力のあり方は何なのでしょうか？　今日、人々の間に汗を流して何らかの国際貢献をしてみたいとの気持ちが高まっているなかで、その一つの方法と機会を提供してきたワークキャンプも、その意義や内実について理解を広めていきたいものです。（公社）アジア協会アジア友の会は今後ともワークキャンプを行っていきます。しかしそれは、セットツアーではありません。いわば素材を提供しているだけの場合もあるかもしれません。ですから、参加者自身の関わり方で有意義なものとも無意味なものともなりうるのです。そして現地の実状を学んだり、日本での生活を振り返った者にとって、本当の国際交流や貢献は、むしろ日本に帰ってから始まります。

渇くアジアと世界に水を！

Japan Asian Association & Asian Friendship Society（JAFS）

＜旅行企画＞

JAFS

公益社団法人アジア協会アジア友の会

Japan Asian Association & Asian Friendship Society

〒550-0002

大阪市西区江戸堀 1-2-14 肥後橋官報ビル 5 階

TEL：06-6444-0587／FAX：06-6444-0581

e-mail asia@jafs.or.jp／http://www.jafs.or.jp

＜旅行主催＞

株式会社トラベル　ファイブ　ジャパン

（観光庁長官登録旅行業 823 号、日本旅行業協会正会員）

〒541-0059

大阪市中央区博労町 3 丁目 6 番 7 号

御堂筋三都ビル

TEL：06-6253-0212／FAX：06-6253-0679

担当：総合旅行業務取扱管理者下村照美